



# 企業戦士の素顔

かつての名刹「細草檀林」の址(あと)に建つ心のオアシス智弘院を訪ねました。



まだ夏の名残を感じさせる暑い8月の末に訪ねた智弘院は、細草の田園に囲まれ、蝉の声だけが響く閑静な環境にありました。

千葉県は昔から日蓮宗が根付いている土地柄なので、日蓮宗のお寺は珍しくもないと誰しもの思うところですが、智弘院は趣を異にします。何と檀家が無いのです。

聞くと、創建は昭和42年東京の杉並区で、昭和61年に当地に移り、その3年後に開山の日起上人が後継者を決めずに亡くなったため、現住職が継ぐまではほぼ30年間外へ向けての活動はなされていなかったとのこと。よって、細草での本格的な始動は現職が継いだ4年前からということになります。

**Q:4年前に住職になられたということですが、仏門に入られたきっかけというのは？**

住職：母が以前から智弘院の信徒で、事あるごとに杉並の寺に通っていたのです。私の中2の終わりごろ、突然日起上人から寺に入れと言われ、中3で転校、身延山久遠寺に入山しました。ほとんどが寺の子弟で、一般家庭からの入山は私くらいのものでした。修行は、それは厳しかったです。

昭和63年に高校を卒業、修行を続けながら立正大学を出てさらに修行するのですが、当時は智弘院を継ぐ気はなかったので、千葉で道場のようなものを開いていました。そこでは貴重な経験を積ませてもらいました。若い頃はそれなりに気負

いもありましたが、随分と柔らかくなりました。

まだ檀家がないので、智弘院の声は主としてHP(ホームページ)を通してブログ、フェイスブックでネット上に発信され、管内近隣のお寺ではまず見られないようなイベントや活動が行われている様子を見ることができます。座禅瞑想体験に修行体験、読経・写経体験など、まさにお寺ならではの体験ですが、京都や鎌倉など有名な観光地では、耳にするものの近隣でできるとは知りませんでした。

この座禅や瞑想体験は企業の研修としての参加や、ストレスや心の病に悩んでいる人が参加されることがあるようです。最近、雑誌に掲載されたこともあってか、旅行会社からツアーのコースにオフアアがあったとのこと。

修行体験は子供向けもあり、さらに子供にはサタデースクールといって寺子屋のような教室も用意されています。座禅、読経や論語の素読体験による我慢の練習(姿勢を崩さないで保つ)、雑巾がけから障子の開け閉めなどの勤行(生活の心得)、約1時間で学校や塾では学べない「心の姿勢」を学ぶことができ、感謝の気持ちを持つなど、情操教育にもなりそうです。加えて昔ながらの遊びやゲーム(カルタ取りなど)を交えてルールや協調性を学んでもらい、悪い縁や場所に近づかない子供自身の心を育む機会となるように配慮しているようです。また、同じ悩みを抱えるお母さんたちのための「子育てママさん交流会」や「うつ」に悩む人のための相談も随時行っているそうです。





DATA

## 智弘院プロフィール

- ▶寺院名 向妙山 智弘院 (こうみょうざん ちこういん)
- ▶宗派 日蓮宗
- ▶代表者名 百井 誠栄 (ももい じょうえい)
- ▶所在地 大網白里市細草602-5
- ▶創建 昭和42年9月19日
- ▶電話番号 0475-77-4681
- ▶FAX番号 0475-77-7168
- ▶ホームページアドレス <http://chicouin.com>
- ▶e-mailアドレス [momoi@chicouin.com](mailto:momoi@chicouin.com)

**Q: 寺子屋ですか。サタデースクールはキリスト教会の日曜学校みたいな趣ですね。**

住職：昔の寺子屋はそういったものだったと思うのです。ただ文字を教えるのではなく、人となるべくしつけをしていた。住職となり地域のことを調べていくうちに、現在白里中学が建っているあたりからこの辺までの地に、江戸時代ははじめから明治まで檀林だんりんといってお坊さんの学校があったことが分かったのです。これも、何かの縁だと感じそれまで胸にあったものを実施しようと思いました。



県内の少年野球チームの座禅修行

「お寺＝文化財」みたいな印象じゃしょうがない。地域に貢献するために何が出来るかを考えた時に、経験から、病に至る人というのは、大抵家庭にそれも親子関係に問題のある人が多い。そういった人が成長して大人になり、身体なり心なりを患うことになる。でも、子供の段階で手を打ち、その手助けが出来ればと思い、寺にスペースがあったのでカフェ風にリノベーションして教室や各種イベントに利用できるようにしたのです。コンサートも料理教室もできるんですよ。

今のところHPを見た親御さんが自分のお子さんを連れて参加してくれているのですが、地元の小学生が寺子屋に来てくれるのが理想です。檀家が無いのでどうしても地域とのつながりが薄い。今年、檀家を有すべく墓所を用意しましたの

で、これからです。

いずれ、有志というか思いを同じくするお母さん方の協力を得られたら実現しようと思っていますが、「子ども食堂」を月1回でも駅前のような行きやすいところで定期的の実施したいと望んでいます。

**Q: 現代型の欠食・孤食児童対策ですね。今までお寺というと保守的なイメージがありましたが、革新的で既成概念とは違い新しいことに挑戦されていて相談しやすいお坊さんの印象ですね。**

住職：今はまだHPでの発信が中心です。思いついたことはブログでいち早く発信するようにしています。

かつてこの国では、世が乱れると誰かが立ち上がり救世済民くせさいじんの筆を執り、念仏ねんぶつを唱え、千万人と雖も我往かんと世直し論を放った求道者たちがいた。彼らは誰に頼ることなく己の道を突き進んだ。信者は今もその跡を歩んでいる。

今、物質社会となり満たされながらもかえって心に荒んだ風が吹いている時代。智弘院百井住職はそんな世相にあって、風を防ぐ囲いを協力し合って作っていかうと呼びかけているように感じました。



左側から小倉副委員長、百井住職、平賀委員長